

平鹿中学校 三年二組 佐藤 あかり
おもいやりの形

「俺はみなさんに生かしてもらっている。」これは祖父がよく口にする言葉だ。

祖父は私が生まれる少し前に病気を患い、今も週三回の通院を続けている。体調がひどく悪い時期もあり、長く入院したこともあった。野菜作りに生きがいを感じていたが、病気になるてからは思うように働くことができず、辛く悔しい思いをしたという。そのような思いを抱えながら祖父は懸命に生きてきた。そして、周囲への感謝の気持ちが大きくなり、病気であっても自分も社会の一員として何かできないかと考えるようになったと話してくれた。中学三年生になり、少しずつ社会との関わりを考えるようになった私は、祖父の言葉の意味をやっと理解できるようになった。

治療には多くのお金がかかっているはずだ。私たち家族が負担するには大きすぎる額にちがいない。それでも私たちが平穏な生活を送ることができているのは、税金による医療費の補助があるからだと知った。

にもかかわらず、税に対してマイナスのイメージをもっている人は多いのではないか。それは税金が不当に使われているニュースをよく耳にするため、イメージが悪化してしまうからだろう。さらに、私たちが税金の使われ方について具体的に知らないということも関係しているのではと思った。

私の大切な家族は税金によって命をつなぐことが出来た。「みなさんに生かしてもらっている」とは、人々が納めてくれた税金に助けられて病気の治療ができ、生きることができているということだった。そのことに気がついたとき、税に対するイメージを悪いままにはしておけないと思った。もしも税による支えがなかったら、祖父はどうなっていただろうか。「税はいらないのでは」と考えたこともあった無知な自分が情けなく思えてくる。

改めて考えてみると、税は私自身にも深く関わっていることが分かる。小中学生一人一人に自分の教科書があること。風邪をひいたり怪我をしたりしたときでも安心して診察を受けられること。税金は身近な存在であり、私たちを支えてくれているということを知れば知るほど、感謝の気持ち自然と芽生えてくるのだ。

もちろん納税は簡単なことではない。苦しいと感じることもあると思う。でも、税金に人々を救う力があることは間違いのない事実だ。そう、私たちは税を通して多くの人とつながり合い、互いを支えることができるのだ。

いずれ私も大人になり、税金を納めることになる。税に支えられて成長してきたことを忘れず、責任をもって納税したいと思う。また、税金がどのように使われているのかも注意して見ていきたい。なぜなら税は私たち自身のために国民自らが納めるものであり、私たちが安心して生活するために欠かせないものだからだ。人々のおもいやりを形にしたもの。それが税なのだ。